

SONY

ソニーグループ ESG説明会

サステナビリティ経営の進化

- 事業を通じた価値創出に向けた取り組み -

ソニーグループ株式会社 専務
神戸司郎

2021年9月15日

社会と地球環境に対する
「責任」と「貢献」

1. サステナビリティ経営の進化

2. 環境に関する取り組み

インテリジェントビジョンセンサー「IMX500」による環境・社会への貢献
— ソニーセミコンダクタソリューションズ 柳沢英太

3. 人・社会に関する取り組み

— サステナビリティ推進部 シッピー光

Sony Music GroupによるSocial JusticeとDE&I活動

— Sony Music Group Towalame Austin

4. サステナビリティ活動を支えるガバナンス

サステナビリティ経営の進化

ステークホルダーとの対話



ESG説明会 第1回 (2018年)

・ 環境、社会、ガバナンスに関する基本的な考え方と取り組みを紹介



第2回 (2019年)

・ ソニーの価値創造モデルを説明
・ 価値創造を支える二つの重要な基盤の一つである「人材」の取り組みを紹介



第3回 (2020年)

・ ESG/テクノロジー説明会として開催
・ 価値創造のもう一つの重要な基盤「テクノロジー」に焦点をあてて説明

サステナビリティの取り組みを事業活動に統合し、事業を通じた価値創出の強化に注力

G&NS

SIEにおけるESGへの取り組み

地球環境への負荷を減らす取り組み

社会貢献活動

ダイバーシティと多様な視点を活かした取り組み

音楽

SMG Growth Strategy & Cultural Fundamentals

MRP Growth Strategies

- Investment in Talent
- India Label, Artist & Writer Services
- Emerging Markets
- New Commercial Opportunities
- Business Expansion
- Sony Group Collaboration

SMG Strategic Cultural Fundamentals

- Diversity
- Inclusion
- Respect
- Equality
- Philanthropy & Social Impact

映画

Expanding Talent Pipeline

DIVERSE DIRECTORS PROGRAM

SONY cine

RISEING POWER TALENT SEARCH

AMERICAN BLACK FILM FESTIVAL

EP&S

サステナビリティ

ライフサイクルを通じた環境負荷低減

再生プラスチック導入

再生可能エネルギー導入

製品の消費電力削減

I&SS

「Road to Zero」に対する責任

ゲーム&ネットワークサービス (G&NS)

音楽

映画

エレクトロニクス・プロダクツ&ソリューション (EP&S)

イメージング&センシング・ソリューション (I&SS)

金融

ソニーグループの環境計画「Road to Zero」

2050年 環境負荷ゼロへ

金融

2. 低金利に耐えうる収益構造への転換 (ソニー生命)

商品ミックス改善

- 法人、資産形成・シニア等の新たなニーズへの対応
- 金利リスクを管理した商品ミックスのシフト

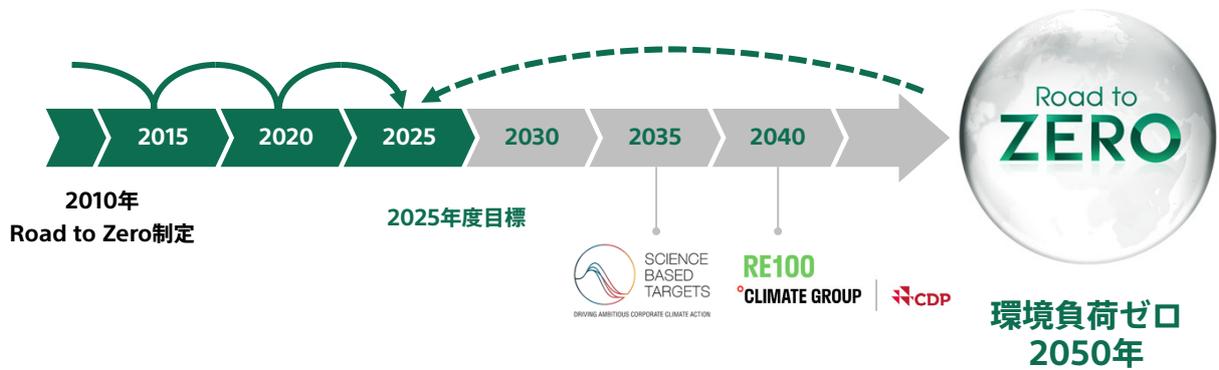
事業費率改善

- デジタル化・業務見直しを通じたオペレーション効率化、生産性向上
- コスト構造の見直し、トップライン成長に対する事業費率削減

資産運用高度化

- 金利環境に適合した投資対象の拡充
- ESG投資強化を含む資産運用の体制強化

ソニーの環境施策



気候変動

資源

環境に関する4つの視点での取り組み

生物多様性

化学物質

責任

Responsibility

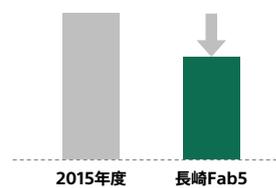
省エネの取り組み

長崎テクノロジーセンター



クリーンルームの年間エネルギー消費量低減

2015年度比▲30%を実現
(2021年度見込み)



年間削減量

CO2 : 5900トン 電力 : 17GWh
(2.2億円相当)

責任

Responsibility

再エネの取り組み

熊本テクノロジーセンター



太陽光パネル設置のさらなる拡大

Sony Device Technology (タイ)



グループ最大規模の太陽光パネルを設置し、再エネ100%を今年度中に達成

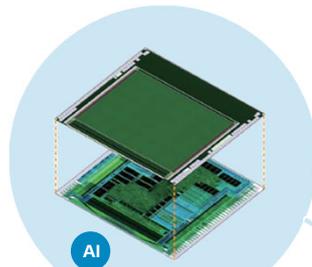
(再生エネルギー証書の購入を含む)

貢献

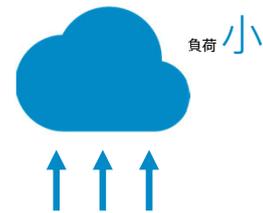
Contribution

インテリジェントビジョンセンサー

メタデータ出力 → データ量削減 → システム内の消費電力削減



IMX500



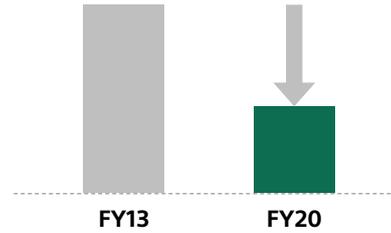
テキスト化されたメタデータ



継続的な省エネ化



製品1台あたりの年間消費電力量
2013年度比約▲54%を達成
(2020年度)



バージンプラスチック使用量の削減

新開発の素材
「オリジナルブレンドマテリアル」を
ヘッドホン製品のパッケージに導入



Xperia™のパッケージにおける
プラスチック包装材使用量の削減



プレイステーション®5の
パッケージにおけるプラスチック包装材
使用量の大幅な削減



再生プラスチック素材
「SORPLAS™」をブラビア®に導入



環境テクノロジーの社会実装へのチャレンジ



マイクログリッドを核とする分散型電力システム
(OES「オープンエネルギーシステム」)

SynecO



人間による生態系の多様性や機能性の拡張
(協生農法™をはじめとする拡張生態系)

もみ殻を再利用して開発した素材「トリポーラス」



外部パートナーへのライセンスを提供しており、
様々な製品に導入されている

SONY

ソニーグループ ESG説明会

インテリジェントビジョンセンサー 「IMX500」による環境・社会への貢献

ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社
システムソリューション事業部 副事業部長
柳沢英太

2021年9月15日

多種多様なIoTデバイスがクラウドにつながる世界

様々なデバイスから膨大な情報とデータがクラウドに流れ、データ爆発が起こる



エッジシステムで目指す世界：6つの挑戦

1. データ量の抑制



2. プライバシーへの配慮



3. 消費電力の削減



4. レイテンシーの改善



5. サービスコンティニューイティ



6. セキュリティ強化

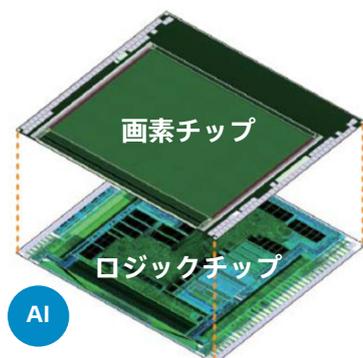
証明書/暗号化

デバイス認証



インテリジェントビジョンセンサー

世界初のAI処理機能を搭載したインテリジェントビジョンセンサー IMX500



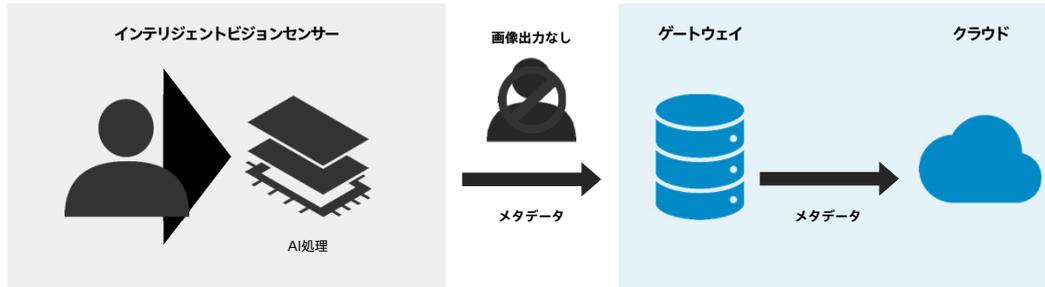
ロジックチップの主な搭載機能

- 通常のイメージセンサー信号処理
- 画像処理を行うISP
- AI処理に特化した独自のDSP
- AIモデルを保持するメモリー

→高性能プロセッサ不要、周辺部品点数削減可能

インテリジェントビジョンセンサー IMX500の利点

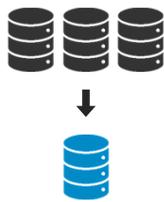
エッジシステムによるプライバシー配慮



画像(個人情報)をゲートウェイ/クラウドに出力しない
ことで個人情報に配慮が可能

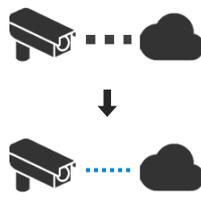
インテリジェントビジョンセンサー IMX500の利点

データ量を最小限に抑えることにより消費電力を削減



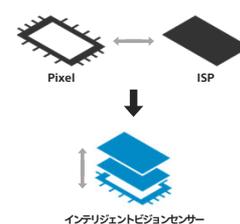
データセンターの電力消費減

データ量(トラフィック量)を削減(1/7400)
できることにより、処理/保存、
および施設維持にかかる電力消費を削減



IPトラフィックの電力消費減

メタデータのみを送信で、ネットワークプロセス
でのトラフィック量を削減(1/7400)

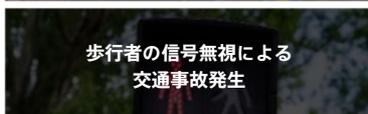
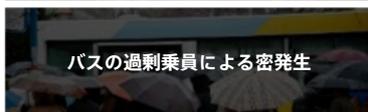
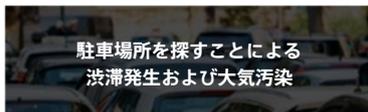


積層技術による電力効率向上

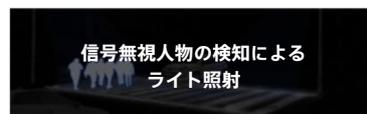
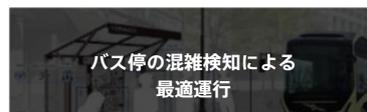
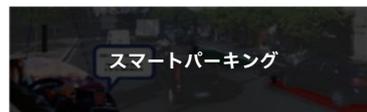
伝送線の距離が短くなることによる電力削減

IMX500 商談事例 —ローマ市—

ローマ市の社会課題を解決するためのスマートカメラ (IMX500) PoCを2021年6月より開始



街灯に設置された様子



問題点

プライバシーの観点から、
市街地へのカメラ設置はハードルが高い

IMX500のメリット

メタデータ出力により個人の
プライバシーに配慮しながら運用可能

マイクロソフトと協業したイノベーションラボの取り組み

気候変動課題に対応するNomad Go社へのソリューション支援



商業ビルの二酸化炭素(CO2)排出量は、
地球上における全排出量の39%

Nomad Goのシステムによって、
消費エネルギーの無駄とCO2排出量を**38%以上削減**

Nomad Goのシステム



センサーが部屋にいる人の人数、滞在時間等を検出。
AIが様々な学習データを基に最適な室温管理や換気を行う。



IMX500を搭載した
スマートカメラ

Nomad Goのシステムにスマートカメラを導入することで、
高速なセンサー内AI処理に必要なデータのみを抽出するとともに
市場参入への障壁を下げる事が可能

SONY

ソニーグループ ESG説明会

人・社会に関する取り組み

ソニーグループ株式会社
サステナビリティ推進部 シニアゼネラルマネジャー
シッピー光

2021年9月15日



アクセシビリティを高める取り組み



多様な社員やユーザーの声を取り入れる
インクルーシブデザインを実践

多様な社員の個性が生きるインクルーシブな職場環境づくり



画像認識などAI機能の精度を左右する画像アノテーションの業務に
精神・知的障がいのある社員がメンバーとして参画

社会全体でのインクルージョンをリード



国際イニシアティブValuable500におけるIconic Leadersに選定

GLOBAL SOCIAL JUSTICE FUND

グループ各社の支援活動



SONY MUSIC

市民の社会参画、
刑事司法改革、教育の分野で
垣根を超えた問題解決を
推進し、平等な権利を
促進する反人種差別的
イニシアティブへの支援を展開

SONY

テクノロジーや
マーケティングのノウハウを
活用した支援、STEM領域での
教育機会の提供などを展開



SONY
PICTURES

人種平等とインクルージョンを
目的とした「Sony Pictures
Action」というイニシアティブを
立ち上げ、社会正義、本物の
ストーリーテリングや改革を
推進する活動を展開



Sony
Interactive
Entertainment

機会の不十分なコミュニティに
おける次世代の人材が
ゲーム業界でキャリアを
積むための機会提供を支援

クリエイター支援



社会に感動をもたらすクリエイターを心と身体の両面でサポート

29

新型コロナウイルス・ソニーグローバル支援基金



医療



教育



クリエイティブ
コミュニティ



外部団体への寄付や寄贈、
テクノロジーを生かした支援



学習機会に制限が生じている
子どもたちへの教育支援

DIVOC-12
ディボック・トゥエルブ

クリエイターの継続的な
創作活動を支援

30

GLOBAL SOCIAL JUSTICE FUND

Sony Music Group

Towalame Austin

Executive Vice President,
Philanthropy and Social Impact



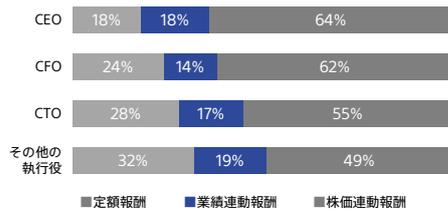
サステナビリティ活動を支えるガバナンス



強固なガバナンス(G)を基盤として、事業活動及び環境(E)、
人・社会(S)に関する取り組みを推進し、長期的な企業価値向上を目指す

サステナビリティ活動を支えるガバナンス

役員評価・報酬制度



上級役員の業績連動報酬の評価指標の一部に、社会価値創出およびサステナビリティに関する取り組みの評価指標を導入

事業評価・KPI



各事業のサステナビリティ課題への取り組みについてKPIを設定し、事業の業績評価の一部に組み込み

- ・ 「長期視点」と「多様性」
- ・ 多様なステークホルダーとの「対話」と「学び」
- ・ 環境領域における「責任」と「貢献」
- ・ 「人」を軸とした経営とDE&I
- ・ サステナビリティの事業活動への統合

■ Corporate Report 2021 統合報告書

<https://www.sony.com/ja/SonyInfo/IR/library/corporatereport/>

■ サステナビリティレポート 2021

https://www.sony.com/ja/SonyInfo/csr_report/

SONY

SONYはソニーグループ株式会社の登録商標または商標です。

各ソニー製品の商品名・サービス名はソニーグループ株式会社またはグループ各社の登録商標または商標です。その他の製品および会社名は、各社の商号、登録商標または商標です。

将来に関する記述等についてのご注意

このスライドに記載されている、ソニーの現在の計画、見直し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見直しです。将来の業績に関する見直しは、将来の営業活動や業績、出来事・状況に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「想定」、「予測」、「予想」、「目的」、「意図」、「可能性」やその類義語を用いたものには限定されません。口頭又は書面による見直し情報は、広く一般に開示される他の媒体にも度々含まれる可能性があります。これらの情報は、現在入手可能な情報から得られたソニーの経営陣の仮定、決定ならびに判断にもとづいています。実際の業績は、多くの重要なリスクや不確実な要素により、これら業績見直しと大きく異なる結果となりうるため、これら業績見直しのみで全面的に依拠することは控えるようお願いいたします。なお、2021年度の連結財務諸表及び通期の連結業績の見直しは、国際財務報告基準（IFRS）にもとづき作成していますので、ご注意ください。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にソニーが将来の見直しを見直して改訂するとは限りません。ソニーはそのような義務を負いません。実際の業績に影響を与えるリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます。

- (1) ソニーが製品品質を維持し、その製品及びサービスについて顧客満足を維持できること
- (2) 激しい価格競争、継続的な新製品や新サービスの導入、急速な技術革新、ならびに主観的で変わりやすい顧客嗜好などを特徴とする激しい市場競争の中で、十分なコスト削減を達成しつつ顧客に受け入れられる製品やサービス（イメージセンサー、ゲーム及びネットワークのプラットフォーム、スマートフォンならびにテレビを含む）をソニーが設計・開発し続けていく能力
- (3) ソニーがハードウェア、ソフトウェア及びコンテンツの融合戦略を成功させられること、新しい技術や配信プラットフォームを考慮に入れた販売戦略を立案し遂行できること
- (4) ソニーと他社との買収、合併、投資、資本的支出、構造改革その他戦略的施策の成否を含む（ただし必ずしもこれらに限定されない）ソニーの戦略及びその実行の効果
- (5) ソニーや外部の供給業者、サービスプロバイダやビジネスパートナーが事業を営む市場における法規制及び政策の変化（課税、及び消費者の関心が高まっている企業の社会的責任に関連するものを含む）
- (6) ソニーが継続的に、大きな成長可能性を持つ製品、サービス、及び市場動向を見極め、研究開発に十分な資源を投入し、投資及び資本的支出の優先順位を正しくつけて行き、技術開発や生産能力のために必要なものも含め、これらの投資及び資本的支出を回収することができること
- (7) ソニーの製品及びサービスに使用される部品、ソフトウェア、ネットワークサービス等の調達、ソニーの製品の製造、マーケティング及び販売、ならびにその他ソニーの各種事業活動における外部ビジネスパートナーへの依存
- (8) ソニーの事業領域を取り巻くグローバルな経済・政治情勢、特に消費動向
- (9) 国際金融市場における深刻かつ不安定な混乱状況や格付け低下の状況下においても、ソニーが事業運営及び流動性の必要条件を充足させられること
- (10) ソニーが、需要を予測し、適切な調達及び在庫管理ができること
- (11) 為替レート、特にソニーが極めて大きな売上や生産コストを計上し、又は資産・負債及び業績を表示する際に使用する米ドル、ユーロ又はその他の通貨と円との為替レート
- (12) ソニーが、高い能力を持った人材を採用、確保できるとともに、それらの人材と良好な関係を維持できること
- (13) ソニーが、知的財産の不正利用や窃取を防止し、知的財産に関するライセンス取得や更新を行い、第三者が保有する知的財産をソニーの製品やサービスが侵害しているという主張から防御できること
- (14) 金利の変動及び日本の株式市場における好ましくない状況や動向（市場の変動又はボラティリティを含む）が金融分野の収入及び営業利益に与える悪影響
- (15) 生命保険など金融商品における顧客需要の変化、及び金融分野における適切なアセット・ライアビリティ・マネージメント遂行の成否
- (16) 大規模な災害、感染症などに関するリスク
- (17) ソニーあるいは外部のサービスプロバイダやビジネスパートナーがサイバーセキュリティに関するリスク（ソニーのビジネス情報や従業員や顧客の個人を特定できる情報への不正なアクセスや事業活動の混乱、財務上の損失の発生を含む）を予測・管理できること
- (18) 係争中又は将来発生しうる法的手続又は行政手続の結果

ただし、業績に不利な影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。新型コロナウイルス感染拡大は、上記のリスク及び不確実な要素の多くに悪影響を与える可能性があります。重要なリスク及び不確実な要素については、ソニーの最新の有価証券報告書（その後提出される四半期報告書を含む）又は米国証券取引委員会に提出された最新の年次報告書（Form 20-F）も合わせてご参照ください